業務資料№006

取扱注意

昭和41年度 営農援助関係実施報告書

1. 営農普及活動実施報告書

(1) レシーフエ支部 （昭42.5.発表済）

(2) ポルトアレグレ支部

(3) ペレーン支部

(4) ブエノス アイレス支部

(5) アスンシオン支部（アルトパラナ事業所）

(6) サンタクルス支部

2. 試験農場試験成績書

サンフアン農場

昭和42年7月25日

海外移住事業団

正　誤　表

頁	正	誤
23	農薬入荷せず	農薬入荷せずず
28	サンファン試験農場	サンファソ試験農場
32	Venezuela	Veneyuela
47	ポンカン	ポンカソ
49	Venezuela 51	Venozuela 51
49	Instituto #25	Instituto 25
49	Inamar	Ianmar
50	ジュート品種試験	ジエート品種試験
52	Pakistan Ⅱ	Pakistan
55	Loxa	Laxa
58	Kudzu	Kudazu
62	Sitophilus Oryzae	Sitophilus Oryzae Schnherr
63	Schönherr	Schonherr

まえがき

昭和41年度下半期在外支部の営農普及活動実績を支部報告にもとづきとりまとめた。

又試験農場の試験成績はサンタクルス支部サンファン農場分について報告あったので加えた。

これら結果を反省し昭和42年度営農援助活動の資としてゆきたい。

昭和42年7月

営農課長

ポルトアレグレ支部

営農普及活動実施報告書

ポルト・アレグレ支部　事業所　リオ・グランデ・ド・スール州

昭和４２年４月現在

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	成果 当初目標	成果 実現した成果	成果 実現出来なかつた要因	摘要
10	機関紙発行による技術普及	各農業移住者に配付	管内全移住者	４５０部			営農担当者の手不足	
※11	近郊蔬菜技術指導 移住地灌漑施設工事計画について検討	技術（主として病虫害対策）講習会 現地金融機関の開拓に協力	サンタ・マリア・ヴィアモン サン・レオポルド地区 イボチ移住地	各１回（８０名）	病虫害の種類鑑定 対策技術の普及 早期実現	６０％ ※ ５０％	営農担当者の手不足のためサン・レオポルド地区実施し得ず 主旨計画を充分認識せしめるための資料実績不足	
12	機関紙発行による技術普及 雑作営農技術指導	各農業移住者に配付 出張による現場指導	管内全移住者 ソール・ナセンテ農場（ジルア）イジュイ地区雑作農家	４５０部 １回（１５戸）	農場の現況調査 経営の問題点指導	０％ １００％	担当者の手不足	
1	近郊トマト生産費調査と広報 農家経済調査結果で経営改善指導 イタリア・ブドウの開園設計指導 青年訓練講習	結果資料を印刷して各移住者に配付 調査、結果分析、問題点抽出して経営パンフレットを作成 生産者組合員の現地指導 各地区代表青年を集めて農業技術訓練	イボチ集団移住地管内集団在住地区	１回（１００部） １回（１００部） １回（２６戸） １回（２０名）	全移住者に配付 近郊各地区代表に配付 各ロッテ別適地選定と植付講習会	８０％ ２０％ １００％ ２０％	予算不足のため印刷部数の制約 手不足のため調査がスムースに進渉せず 南伯産組平松技師招へい 時期の手おくれと予算上の都合	
2	機関紙発行による技術普及移住地灌漑施設計画の推進協力 近郊蔬菜技術指導	各農業移住者に配付 各種金融機関、設工業者の開拓部落集会に出席、講習	イボチ移住地 グラバタイ地区	１回（４５０部） １回（３０戸）	秋作蔬菜の経営ポイントの認識	０％ ８０％ ３０％	手不足 決定的なものにするための当局実績の不足 集会の時間不足で閉会 次期を約したが手不足のため再現できず	
3	イタリア・ブドウの開園技術について委託栽培農家の技術指導 適地適作への集団独立気運に対する指導	資料蒐集とパンフレット作成配付 委託栽培農家の圃場、現地指導、検討候補地分析のため予備調査	イボチ・ラーモス移住地全戸および関係移住者 イボチ移住地組合集団独立発起人会	１回（１５０部） １回 ２回（６名）	印刷・配付まで実行。試験状況の把握 集団独立期成会の結成	３０％ １００％ ３０％	手不足のため発送の段階まで進まず 候補地の余備調査継続中 入植希望者の転住資金についてはっきりした目途が立たず期成会の結成までに至らず	

普及活動上の反省と所感

普及、指導活動の反省と今後の方向（管内農業の方向との関連において）についての所感

◎　当支部管内移住者はこれまでラーモス移住地以外は南伯２州の約９０群に分散居住しているので、これらの広範囲にわたる移住者の営農普及指導活動を行う場合、現在の支部体制、機能で果してどこに焦点を合わせてゆくべきか常時問題となるところである。

今期においては、一応借地農の形ではあるが管内に定着しようとしている移住者の実態に即応して自営農への独立をどのように進めてゆけばよいかについて、当地方農業の現況および将来への見通しを当団自身が確立しなければいけないとの想定のもとに主として調査活動に力を注いで来た。その結果当地方農業が牧畜、菽穀作物、水田稲作等非常に大規模な形態による経営を支柱としているとはいえ、諸生産性において中小規模（土地規模上の）の経営が非常に認識され始めており、営農構造を合理的に検討してゆけば、邦人の喰い込む分野は充分に開かれていることが確認された。

これまでのように都市周辺にへばりついて近郊型の営農を、しかも借地という形で続けてゆく限り、当地方への移住は完全に失敗に終ることになろう。

当地方のみならず伯国全体の農業が暴大な外資を導入しての急速な近代化に伴う商工業都市の膨張に対して比較的有利に展開されてきたことは戦後の農業者成金が非常に多いのでもよく理解でき、日本人コロニアの中にも驚歎すべき財をなした者が少くない。しかし最近の情況は流通機構の整備、農商工業各界にみる投下資本に対するはね返り利潤率等の格差において往年のような暴利を期待できぬところまで変転して来ており、僅かに各種災害、不況後の作付激減等により生ずる短期間の好況がみられる程度となっ

ている。そして農家はこの趨勢と共に浮沈みを繰り返しているものが多いというのが実情である。従って過去においてみられたような投機性においては、移住の意義が薄くなっているといえよう。

一方移住者の現実は、このように変転しつつある農業情勢にも拘らず、なお投機性から脱し切れず、毎年々々最も投機性の高い短期作物（特にトマト中心）にしがみついているようにみえるのは、移住の動機、目的が以前のように財を築くことにおかれていたことからすれば半ば無理もないことのようにも思われる。この点が新らしい移住の理念、経営方針の転換指導の効率がなかなか思うように上らない根本要因であるように考えられる。

しかしながら最近になって伯国の諸事情にもなれ、直接自身の体験から割出して都市近郊での借地による労力的、資本的無理をおしての経営に漸く見切りをつけ、何とか自給体制をおりこんだ適地適作地に集団で活路を開こうとする動きが見られるようになった。イボチ集団移住地での独立（２６戸）はそのあらわれであり、永年作物、養鶏、蔬菜等を組み合わした構造で出発したものであるし、年度近くになってあらたに第２の集団独立気運が醸成されるなど非常に好ましい自主的姿であると考えている。営農技術の指導を経営（大きな意味で全農業者の）から切りはなして行なうことはOVER PRODUCTION に連なるものであることを身近かに認識しているので、現在当支部に移住者が大きく期待していることも邦人の農業を一体どのように開拓してゆけばよいのかという方向づけにあるようである。

ここに当支部普及指導活動の本命があるので、当面積極的に強力な独立推進策として集団独立援助に全力を傾けたいと考えている。市場性の開発の問題も集団、協力により容易に解決される問題である。なお独立の方策、営農構造の基本的な問題解決が出来ている以上、問題は追い込まれた現実の財の弱い移住者をどういう風に軌道に乗せるかということであり、ここに思い切った融資の併行が切望される所である。

伯国の農業は前途多難ではあるが希望のもてる方法、方向があることを

指導上の心の支えとしてゆきたい。

ベレーン支部

普及活動上の反省と所感

営農担当員は営農指導といっても、新しい原始林伐開から始り、生活基盤を確立する農家にとっては生活相談が先行しなければならず、総合的に能力のある指導者でなければならない。第２トメアス事業所の陳容では十分なる普及活動の実現は出来ない。我が支部においては、これらの実状から斟酌し、学識経験者を講師として適時講師の派遣により営農指導を実施しているものであり、現在までも多大の効果を上げてきていると判断される。

農業に対する一般知識の普及、ピメンタ栽培法の実際、農業簿記の記帖方法又は料理講習会等については、今後とも新移住者の導入と平行して推進しなければならない。しかしすでに経過年数も経ち、経済的基礎も築かれた農家に対してなすべき事項については目標はあっても、推進力に乏しい。

たとえばピメンター辺倒から抜けきるための方法について

1. ピメンタ栽培面積の適性規模
2. ピメンタの適性施肥量
3. 短期作物の導入
4. 香料作物、薬草の導入
5. 家畜の導入方法

5.についても、飼育の可能性と市場性等々、未知のもののみである。

幸いにも、昭和４１年度から、農場開設が出来たことは、営農指導者としては喜びに堪えない。

農民を強力に引っぱり普及の浸透により、実行を高めるためには先ず指導の裏付けとしての実績を示す事であり、種苗の配布、優良品種の適応試験等も実施し、経験の拡大と多角経営を目標に推進せしめたい。

ブエノスアイレス支部

営農普及活動

[illegible] ガルラベー

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名
41/10	牛病気予防注射の実施	部会に対し回覧指示注射実施（3月ごとに1回）	牛飼育者
11	蔬菜栽培について	農協役員（3名）によるポサーダス市栽培者との話し合い	—
42/1	柑橘普及、増及について	柑橘部会員招集	部会員並に希望者

普及活動上の反省

（反　省）

(1) 単なる営農指導による作物の決定等では十分に成果を期待できないこ

(2) 当地の気象条件（亜熱帯に属する）は、雨季、乾季の別なく特殊作物

（将来の方向）

(1) 市場性に向く作物を考慮することが先決であること。（販売ルートの

(2) 経営、経済的考え方を有する指導職員を配置すること。

(3) 労働節約的農業経営の促進をすること。（機械化による経営の近代化

(4) 農産加工について検討すること。

実績報告書

[illegible]

対象作物又は実施回数	成果			摘要
	当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因	
2	全数注射予定	第1回 100％ 第2回 100％		50ペソ／頭 実費
1	—	—	—	
1	—	—	—	

と所感

と。

は期待できないこと。

確立）

営農普及活動　実施報告書

ブエノス・アイレス支部　アンデス事業所

昭和４２年４月現在

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	成果 当初目標	成果 実現した成果	成果 実現出来なかった要因	営農指導費よりの支出金額	摘要
昭41年自10月～11月	1.永年作物主体の強調ブドウの植付各戸２Ha分以上	営農融資貸付による農協の営農指導部を中心として	２４戸分に対し	２６戸分	各戸2Ha平均植付方法	各戸約２Ha平均植付する	営農資金の不足が若干あった。		◎１部設備の（棚、垣根仕立）出来ないものもあつたが之は材料を購入し新年度に完成するもの若干ある。 ◎トマトの試作 ROMA種 RONITA種の比較試験 ◎営農普及についてはＩＮＴＡの技師直接指導にあたり其の他の技師も講習会を実施して、其の実習作業も行った。
	2.トマトの新品種の試作（ロニータ）（自９月～至３月）	ＩＮＴＡの直接指導を受けて実施する。農家は全員受講する。	農協が中心となり試作は２戸の農家を選定する。対象全戸数。	毎月２回又は３回調査実施する。	当初の目標２戸を選び２ケ所にて実施	１００％優良であった。	な　し	若干支払約5,000ペソ	
自12月～至1月	3.アルファルファの植付 土地改良の必要	ＩＮＴＡの指導を受け有機質分の必要と土地の改良	全　戸　数	毎月訪問する度に	平均各戸数４－５Ha以上	戸数に対し平均３Ha	植付播種期でない原因で３月－４月実施		
自2月～至3月	同　上	〃　〃	〃　〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	4.各家庭訪問して植付の現況等の調査								
	5.防風林の植付指導	ＩＮＴＡより来年度良品種の苗を受けとり之を（営林局より）植付する。	農協中心全戸数	月１回	来年度の実施（8月－9月）		植付時期でない。		

普及活動上の反省と所感

普及、指導活動の反省と今後の方向（管内農業の方向との関連において）についての所感

◎　営農の普及、指導の活動は毎度のことながら之に専念する時間的な余裕がないことは計画の実施が不可能であることで常に心残である。

然しながら担当移住地の営農の目標を短期作物主体の傾向から永年作物主体の方向に進め、有機質性分の少い土地の改良に対し緑肥栽培の必要を強力に進め、之の営農資金を融資により各戸平均２Ｈａ以上のブドウの植付及棚仕立、垣根仕立の設備準備までに至った永年作物とアルファルファの植付も各戸２Ｈａ又は３Ｈａ分植付することが出来、その目標に近づいたことを喜んでいる。特に当地方のＩＮＴＡ（国立農業技術試験所）の技師による普及指導によることが極めて大きく、今后も引続いて現地機関を利用していくべきであると考えている。

短期作物（トマト・ピーマン）栽培は勿論換金作物として欠くことの出来ないものであるが、多分に投機的になりがちであり、一方自給自足の必要から遠ざかる傾向が極めて強いので之の反省をうながしながらもその結果はかならずしも効果的でなかったが今后も引続けて行きたい。

短期作物の特に問題の大きいトマトのネマトーダによる被害であるが本年も予想以上の被害により減収したのであるが、本年はＩＮＴＡの指導のもとに特にネマトーダに強い新品種を（Ronita ロニータ）を移住者の２戸を選定して試作した。その結果は以外に極めて優良であったので新年度は其の新品種の植付を実施しネマトーダの被害から脱したい。

防風林の必要は認めながら実際ロッテの境界が明確でなかったので、その普及が進まなかったが、之も又ＩＮＴＡの紹介あっせんにより営林局からポプラの新品種を得て今后境界の決定をまって強力に植付を実施したい

と考えている。

今后の方向も農業融資の貸付の主体を永年作物とし特にブドウの植付を名戸平均1.5Haまでを目標としアルファルファの植付面積を4Ha以上までに達したいと考えている。

最后に営農の普及指導上最も大きな問題が当移住地に残されている。即ち営農上直接的な問題ではなく、亜国に於けるインフレによるドル建融資の為替差損である。

移住営農が順調に行われても、利息の返済と元金の返済金が毎年極端に上昇し農業生産物の総収入が之に達しない極めて無理な結果となっている現況は移住地の発展を阻害していることとなり、之に対する対策がないことは極めて残念である。

1例として1966年度（農年として自6月～翌年5月）農業総収入に対する利息と返済元金の比率と、1967年度の農業総収入に対する利息及元金返済金の比率を比較したる時、1966年度は約36％に達したが1967年度は約78％に達しようとしている現況を見る時今后の営農指導に最も大きな問題点となる。それはただ為替差損による結果であることである。

以　上

ア スン シ オン 支 部

（アルトパラナ事業所分のみ）

営農普及活動実施報告書

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	当初目標	実現した成果	実現出来なかつた要因	営農指導費より支出金額	摘要
9月	災害融資の貸出しと資金使途。	個人相談	180戸	問題農家50戸の濃密指導。	今月10戸	1.営農担当員の手がまわりかねた。 2.資金が過少であって計画が建たなかった。		
10月	同上	同上	同上	同上	今月20戸			
11月	これからの豚の飼い方	懇談会、パンフレット	各地区研究グループ（6ケ所）	1.増体率と肉質の点から品種の改良の必要性と肉豚の導入。 2.品種改良と共に従来の飼育法から脱却する。 a 飼料配合の改良。 b 豚舎の改良 c 駆虫薬の必要性	41年度中に導入した優良豚　30頭 該当農家の2割 〃　1割 〃　1割	優良肉豚の導入斡旋を支部が行ったが導入不可能に終った。 品種の改良がなされないので、従来の飼養法を改善する気が起らなかったことと又さしてその必要性もなかった。		
12月	豚のブラジルへの輸出ルートを開く。 種豚生産農家の育成。 牛豚の伝染病アフトーザの予防注射の方法と実施	支部斡旋 モデル豚舎を融資によって建築。 パンフレット、懇談会、巡回。	全地域 各地区研究グループ。 全地域	300頭の豚を建てそこで増目標 現在出荷態勢にあるの出荷。 4戸のモデル豚舎を殖配布する予定。 当地区牛80％	ブラジルへの輸出は不可能であったが、アルゼンチン、アスンシオンへの販売ルートをつけた。 1戸のみ融資貸し付決定 目標の60％	既往債務があって償還計画が建てられなかった。 注射代金を支払い得ない農家20％ 追込柵、枠場がなく		
1月	豚の伝染病豚コレラの予防注射。 水田本圃の管理水の掛け引きと消毒。	パンフレット懇談会 巡回 巡回指導	全地域 全地域	10頭以上在40戸 優良豚所持者及び来豚所有農家。 水田初心農家。	当初目標の40％ 20戸	注射代金が高く、支払い得ない農家があった。 営農担当員の手がまわらなかったこと。		
2月	牛所有者に予防注射、手当、人工授精の為に枠場の作成の指導。 人工授精の普及。 実態調査（農家経済）	パンフレット 講習会パンフレット、巡回 巡回	全地域	該当農家の7割。 41年度にはテスト当地区で10頭程度。 100戸	期間として、 2期 当地区で採液分5頭 サンロレンソより精液分5頭 100戸	農家に時間的、経済的余裕がなかった。 目標通り但し、追込み柵と枠場の必要性を痛感。		
3月	家畜の疾病の知識 柑橘潰瘍病調査	講習会	研究グループ代表	1.牛豚の伝染病の基礎知識。 2.優良個体の見分け方。 3.人工授精の知識。	当地区にはまだ潰瘍病は殆んど出ていないことが判明。	講習会の期間が短かかった。		

普及活動上の反省と所感

1. 多忙で有り過ぎて手が廻り兼ねた。問題の農家には幾度も足を運んだが、そうでない農家は訪れる機会がない。経営、作物、畜産の関係職員３名の常駐が必要である。
2. 支部、本部よりの調査、依頼報告事項が多く、支部、本部の方を向いて仕事をしている感があった。
3. 予算が過少で誠に不自由（特に自動車維持費）従って連絡が行き届かなかったり又普及業務そのものに魅力を持たせることが難しい。
4. 現在当地区で重要な事項で又農家が熱望しているのは優良種苗、種畜の導入であり、今年度農協と共に斡旋業務に力を注ぎたい。
5. 移住者農民が営農しやすい様な「営農環境を作り出す」ことが、アルト・パラナ営農普及活動のスローガンとしている。即ち4.の優良種苗、種畜、薬剤等の斡旋もこの一つに入るわけであるが、その他生産したものがより有利に販売出来ること、この３点にしぼって今年度は普及活動を進めたい。

営農担当者の体制（アルト・パラナ）

氏　　名	所属事業所名	年　令	普及活動経験年数
青　山　千　秋	アルトパラナ事業所	３１	３年
井　上　哲　郎	〃	３０	

担当農家戸数	担当面積	普及上の機動力	摘　　要
３２０戸	2,５００Km²	ジ　ー　プ	
			農場勤務

サンタクルス支部

営農普及活動実施報告書

サンタクルス支部　　サンファン事業所

昭和４２年３月現在

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又はグループ名	対象件数 実施回数	成果 当初目標	成果 実現した成果	成果 実現しなかった要因	営農普及費よりの支出額	摘要
10	水田稲作	印刷物その他	営農連絡会、展示	約４０名	水田稲作の増加	現実に水田造成なし	資金と経験の不足	3,000	
11	牧草植付	〃	全移住地、営農連絡会	２回	牧草植付の増加	牧草植付が増加している。		3,000	
12	果樹の剪定 殺草剤の使用	実施指導 実験現地説明	個人 営農連絡会 その他	約３０名 約１００名	柑橘の剪定奨励 陸稲除草費の節減	剪定して増収した 殺草剤使用は実現せず	 農薬入荷せず	3,000 3,000	
1	農繁期と雨期のため特別の指導は行えなかった							2,000	
2	農薬取扱注意	印刷物	全移住地	１回	農薬の薬害と取扱の注意喚起	一般に注意を促した		4,000	
3	牛の飼育について	講習会		〃	牛飼育の場合の疾病の防除	講習会出席者３２名		20,000	
3	先進地視察	見学	希望者	〃	営農、牛飼育加工施設の見学調査	参加者は引率者共１０名		180,000	

（注）　この外に巡回指導した者及び試験農場に営農相談のため来場した者は約１５０名である

普及活動上の反省と所感

1. 営農指導のための農作物及び家畜の試験、展示等については当農場開設以来鋭意努力が払われ、毎年削減される予算額に逆行して内容は膨張を続けて来た。それはサンファンの置かれている地理的条件と周囲が後進国の国情に似合った技術水準にあるため止むを得なかったと云えよう。又苟も試験を謳い、営農指導と云うならば、移住地の現状に先行した作物の導入も試作も必要であってこれを無駄と云うならば常に移住者の後を追いかける結果になるであろう。勿論、先行した試作が全部有終の美を結ぶとは限らない。然しながらそのことをもって無駄をしたと云い切ることが出来るであろうか。当試験場は上の観点に立って乏しい予算の中で運営を続けて来た。然しながら現在の予算をもってしては計画倒れになる恐れがあり、忍んで農場運営に一大転換を行うべき時であると考える。

そのためには折角苦労して蒐集した各種作物即ち米３０種、果樹等４０種、ケナフ１２種、大豆１０種、胡麻１０種、落花生９種、小麦２種、計約130種の品種の保存も、油料作物、繊維作物等の展示も豚、鶏、密蜂の飼育展示も一切を放棄してサンファンの当面する第一施策として策定した営農振興計画の線に添った米作（水田を含む）と肉牛の試験、増殖展示に重点を絞るの止むなきに至らざるを得ないと考える。

この転換が後年批判を受ける時期があってもそれは止むを得ないであろう。

2. 今日までの経験で云えることは農家は極めて保守的であって経営の方式、作物の品種等も容易に改めようとしないものである。特に、印刷物等で如何に説明しても納得しないが、現実に目に見ることによって意外に早く了解し、普及指導が順調に進むものである。限られた土地で米の収穫高を上げるには、耕種法にもよるが、何よりも水田化することが最も効果的であるとは云われながらも実際には、水の問題、時期と品種の問題等未だ明らかにされていない点があって、水田造成に踏み切れないのが実情であるか

ら、試験農場で開田試験を実施すると共にモデル農家を設置して水田造成の促進を図りたい。

3. 現在、移住地では肉牛の飼育熱が盛んになりつつあるが、ここでも云えることは土地が限られていることである。とすれば限られた土地から増収を図るには、単位面積当飼育頭数の増加と、価値の高い牛を生産することである。

そのために試験農場で牧草に関する試験を行い、優良肉牛の飼育、増殖を図って移住地牧畜の発展に寄与したい。

昭和４１年度（１９６６年１０月～１９６７年３月）

試　験　成　績　書

サンタクルス支部

サンフアン試験農場

目　　次

昭和41年　月別　気象表
（1966年）

サンフアソ試験農場

種目 ＼ 月別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	平均
気温（C）	最高平均	31.2	29.4	29.8	29.9	26.0	26.3	25.4	25.8	29.3	29.0	32.4	30,4	28.7
	最低平均	22.4	21.9	20,4	19.6	17.2	17.6	14.6	13.5	16.6	20,4	20,8	21.7	18.9
	日平均	26.7	25.7	25.2	24.8	21.6	22.0	20,0	19.7	22.9	24.7	26.6	26.1	23.8
	絶対最高	36.0	32.5	33.5	32.0	30,0	30,8	29.5	33.5	35.0	35.0	36.5	35.0	33.3
	絶対最低	19.0	16.5	15.0	13.0	9.5	11.5	7.0	5.5	8.5	13.0	17.0	19.0	12.9
雨量（mm）		329.5	209.5	170,5	73.8	218.8	150,5	27	1	134	187.5	102.5	359	計 1964.1

I 食糧作物の部

1. 米の品種試験

(1) 目的

多種、良好で耐病性の品種を選出する。

(2) 試験方法の概要

(ア) 供試品種　Pratao他他24種

(イ) 試験区制　1区制　1m×11m×24×2列＝528㎡

(ウ) 耕種概要

畦巾	1mの条播
播種	10月17日
除草	11月14日　11月24日 12月28日
間引	11月17日
培土	11月18日
農薬	10月31日ホリドール撒布
肥料	追肥ha当配合肥料100kg

(3) 試験成績

(ア) 生育調査

品種名	播種期	草丈cm	稈長cm	出穂始	出穂期	穂揃期	出穂日数	成熟期	成熟日数	生育日数	備考
Pratão	10月17日	156.2	121.9	12月30日	1月6日	1月9日	81	2月2日	27	108	
Noventa dia Corolado	〃	157.8	123.7	12. 30	1. 6	1. 9	81	2. 2	27	108	
Noventa dia Blanco	〃	150,4	120,7	1. 2	1. 8	1. 11	83	2. 8	31	114	
農林11号	〃	136.2	112.8	1. 7	1.14	1. 18	89	2.10	27	116	
農林21号	〃	129.6	94.7	12. 28	1. 1	1. 3	76	1.30	30	105	
農林糯25号	〃	127.0	103.9	12. 23	12.29	1. 1	73	1.30	32	105	
みなみはたもち	〃	135.7	107.4	1. 7	1.15	1. 19	90	2.10	26	116	
台中65 65号	〃	117.6	89.7	1. 11	1.18	1. 22	93	2.23	36	129	
奄美糯	〃	103.4	82.3	12. 28	1. 6	1. 17	81	2.10	35	116	
Durado A	〃	165.5	135.4	1. 19	2. 1	2. 4	107	3. 2	29	136	
Durado B	〃	174.8	143.8	1. 11	1.19	1. 27	94	2.21	23	127	
Iguapé aguina	〃	190,0	155.8	1. 16	1.25	1. 29	100	2.21	27	127	
Iguapé	〃	165.3	132.1	1. 19	1.30	2. 2	105	2.27	28	133	
Amarelon	〃	170,9	137.7	1. 23	1.31	2. 3	106	2.27	27	133	
Perola	〃	175.7	136.7	1. 17	1.29	1. 31	104	2.27	29	133	
Veneyuela	〃	173.8	135.6	1. 19	1.27	2. 1	102	2.27	28	133	
No 113 7-v-8	〃	174.1	138.2	1. 19	1.25	1. 29	100	2.21	27	127	
Foituns	〃	176.5	130,9	2. 4	2. 8	2. 11	114	3. 7	27	141	
Sun Bonnet	〃	170,5	138.4	1. 27	2. 1	2. 6	107	3. 2	29	136	
356 S/N	〃	169.0	129.2	1. 17	1.27	1. 30	102	2.21	25	127	
435 S/N	〃	165.4	137.9	1. 19	1.24	1. 29	98	2.21	28	127	
Lacrosse	〃	189.3	119.3	1. 11	1.16	1. 29	91	2.15	30	121	
Cateto	〃	168.6	134.2	2. 29	2. 6	2. 8	112	3. 2	24	136	
Palo M	〃	169.6	135.2	1. 11	1.29	1. 31	104	2.21	23	127	

(イ) 収穫調査

品種名	2m 全穂数	2m 遅穂数	2m 有効穂数	平均穂長 cm	1穂粒数	2m 生穂重	2m 乾燥穂重	2m 全籾重	2m 精籾重	2m 籾重	精籾重歩合	精籾 1,000粒重	備考
Pratão	193	2	191	27.1	192.5	972	812	778	736.5	41.5	94.7	37.0	
Noventa dia Corolado	189	5	184	26.2	185.1	937	792	763	721.5	41.5	94.6	37.0	
Noventa dia Blanca	203	1	202	28.7	224.3	1.090	947	906	879.0	32.0	97.0	32.0	
農林11号	213	8	205	25.3	148.3	653	715	577	491.5	85.5	85.2	22.0	
農林21号	222	4	218	23.7	168.6	817	707	684	675.0	9.0	98.7	27.0	
農林糯25号	198	0	198	22.5	162.7	842	664	631	615.0	16.0	97.5	29.0	
みなみはたもち	203	6	197	25.7	154.7	739	592	559	445.5	113.5	79.7	25.0	
台中65号	275	12	263	22.9	149.1	959	758	719	702.0	16.5	97.6	25.5	
奄美糯	191	7	184	21.6	122.7	601	474	452	424.0	25.0	93.8	26.0	
Durado A	162	6	156	15.6	175.6	802	672	646	642.0	3.5	99.4	34.0	
Durado B	175	21	154	24.1	127.1	716	600	563	542.0	21.0	96.3	36.5	
Iguapé Aguina	155	35	120	25.6	219.4	717	612	597	565.0	31.5	94.6	29.5	
Iguapé	160	16	144	27.1	163.5	692	584	556	540.5	15.5	97.2	32.0	
Amarelon	193	8	185	25.4	140.2	693	584	560	553.0	7.0	98.7	34.0	
Perola	179	11	168	25.6	160.5	735	628	598	585.0	13.0	97.8	35.0	
Venezuela	155	19	136	27.8	190.5	697	581	554	547.0	7.0	98.7	34.0	
NO 113 7-V-8	142	13	129	27.9	216.7	638	571	555	541.5	13.5	97.6	31.0	
Foituns	141	3	138	32.5	230.6	—	453	420	370.0	50.0	88.1	27.0	
Sun Bonnet	158	10	148	29.2	213.4	649	520	486	428.0	58.0	87.2	22.0	
356 S/N	184	19	165	28.3	203.2	629	503	460	381.0	79.0	82.8	22.0	
435 S/N	226	15	211	26.9	226.3	857	768	737	678.0	59.0	92.0	32.0	
Lacrosse	225	8	217	28.5	228.6	993	717	740	699.5	40.5	94.5	22.0	
Cateto	168	0	168	26.1	180.3	960	769	739	714.0	25.0	96.6	36.0	
Palo Moraclo	198	19	179	27.3	235.2	845	762	725	666.5	58.5	91.9	24.0	

考察

本年試験に供した圃場は2年間休裁して緑肥を作つた土地であつたため、生育極めて良好であつた。特に例年にない成績としてはPratão, Nouenta dia Corolado及びNoventa dia Blancoãの早生3品種が生育、収量において晩生種を凌ぐ結果を示したことで、このことは生育日数の短いことと合せ考えれば極めて重大な意義を有するものと言わなければならない。即ち生育日数が20日以上短いことは栽培上、輪作関係等から非常に有利であつて肥沃地米作の場合の品種選択に新しい分野を拓くものと考える。

2. 水田における米の品種試験

(1) 目 的

米の水田栽培の場合の資料を得る。

(2) 試験方法の概要

(ア) 供試品種	台中65号他6種	
(イ) 陸苗代播種期	11月15日	
(ウ) 水田挿秧期	12月16日	
(エ) 栽培距離	0,3m × 0,24m	1本植
(オ) 基肥	ha当配合肥料 240kg	
(カ) 農薬	1月7日ホリドール撒布	

(3) 試験成績

(ア) 生育調査

品種名	播種期	挿秧期	草丈	稈長	出穂始	出穂期	穂揃期	出穂日数	成熟期	成熟日数	生育日数	備考
			cm	cm								
台中65号	11月15日	12月16日	111.6	88.5	2月 3日	2月 7日	2月11日	84日	3月13日	34日	118日	
奄美糯	〃	〃	107.5	66.6	1. 26	2. 2	2. 4	79	3. 1	27	106	
善光寺糯	〃	〃	104.2	79.8	1. 26	2. 3	2. 6	80	3. 2	27	107	
Pratão	〃	〃	133.9	105.3	1. 31	2. 9	2.14	86	3.10	29	115	
Iguapé	〃	〃	150.5	116.3	2. 16	2. 20	2.23	97	3.21	29	126	
Cateto	〃	〃	134.2	105.9	3. 21	2. 24	2.27	101	3.23	27	128	

(イ) 収 調査

品種名	1株全穂数	1株遅穂数	1株有効穂数	穂長	1穂粒数	1株生穂重	1株乾燥穂重	1株全籾重	1株精籾重	1株わら重	精籾重歩合	精籾1.000粒重	備考
						g	g	g	g	g	%	g	
台中65号	14.3	0.7	13.6	22.0	131.7	46.6	38.5	36.2	34.6	1.6	95.6	28.0	
奄美糯	11.3	0.2	11.2	21.0	136.4	37.1	27.2	26.1	26.0	0.1	99.6	26.0	
善光寺糯	11.5	0.6	10.9	20.1	118.0	32.3	23.1	22.1	22.0	0.1	99.5	25.0	
Pratão	7.9	0.1	7.8	23.5	149.6	44.2	33.9	32.5	32.2	0.3	99.1	35.0	
Iguapé	7.4	0	7.4	29.1	195.8	43.1	34.9	33.3	31.4	1.9	94.3	34.0	
Cateto	7.6	0	7.6	23.7	157.9	44.7	35.0	33.8	32.6	1.2	96.5	37.0	

考察

本試験用水田は天水田であるが降雨が少なつたため予定挿秧期12月10日には湛水せず、従つて挿秧がおくれて老熟苗になつた

その後も1月中に地面に亀裂を生ずるなど水稲作には不良な自然条件であつた。

そのため草丈低く精籾収量少なく、精籾1.000粒重も軽い、ただPratãoが前年に比較して穂数、精籾重で良好な成績を示していることは注目すべきである。

3. 大豆品種試験

(1) 目 的

多収、耐病性の品種を選出する。

(2) 試験方法の概要

(ア) 供試品種　　aburaa他14種

(イ) 播 種 期　　6月8日

(ウ) 栽植距離　　0 6m × 0,3m点播

(エ) 供試面積　　10,0m × 0,6m × 14 × 3区＝252㎡

(3) 試験成績

品種名	播種期	開花期	収穫期	開花日数	生育日数	6㎡種実収量	種実100粒重	備考
AburaNo1	6月8日	7月30日	9月25日	52	109	150g	18.0g	
Pelicano	〃	7.28	9.26	50	110	233	24.5	
Aragatuba	〃	8. 4	9.26	57	110	217	26.0	
パラグワイ 中生	〃	8. 2	9.25	55	109	207	21.0	
パラグワイ 晩生	〃	8. 4	9.25	57	109	200	19.0	
ColmenaJ	〃	8. 3	9.25	56	109	40	24.0	
ColmanaJ	〃	8. 3	9.25	56	109	170	26.0	
サンフアソ 中生	〃	8.15	10. 3	68	117	350	25.0	
Otootan	〃	8. 5	9.20	58	104	100	11.0	
Lran	〃	8. 3	9.20	56	104	100	9.0	
Acadian	〃	8. 2	9.20	55	104	107	13.0	
Biloxi	〃	7.28	9.25	50	109	93	19.0	
P-1-205-912	〃	9. 5	10.28	89	142	137	11.0	緑肥用種
Abura No2	〃	7.28	9.20	50	104	167	18.0	

考察

低温、乾燥期の大豆作の成績を知るために6月初旬に播種したのであるが、結実しないものがあつて収量は非常に少なかつた。

播種期を前後にずらして試験する必要がある。

生育期間中度々の南風害を受けて生育が乱れ、着花しつつも

果樹の部

1. パインアップル収穫期調節試験

(1) 目　的

パインアップルの開花期をホルモン処理によつて調節し、収穫期間を長くすることによつて販売を有利にする。

(2) 試験方法の概要

(ア) 品　　種　　在来種

(イ) 植付時期　　1964年12月9日

(ウ) 栽植密度　　2列植、畦 1.50m 列間株間各 0.50m 千鳥植

(エ) ホルモン処理　　アルファナフタレン酢酸 50,000倍、100,000倍液を20日毎に芯部に30～50cc注入する。

(オ) 区　　制　　3月6日、3月25日、4月14日にそれぞれ、50,000倍、100,000倍処理を行い、別に対照区を設けた。

(3) 試験成績

(ア) 3月6日注入区

区別	No	成熟期	裔芽数	裔芽重	果重	Brix
五〇、〇〇〇倍	1	10月 6日	3	0.245kg	1.400kg	11.8
	2	10. 6	2	0.250	1.250	11.0
	3	10. 6	3	0.235	1.300	10.4
	4	10. 11	2	0.210	1.100	12.4
	5	10. 11	2	0.280	1.500	10.8
	6	10. 11	1	0.250	1.100	11.2
	7	10. 17	0	0.260	1.000	11.0
	8	10. 17	0	0.286	1.400	10.6
	9	10. 17	0	0.260	1.400	11.0
	10	10. 17	3	0.310	1.400	10.6
	平均	10. 12	1.6	0.259	1.285	11.1

(注) (1) 成熟期はすべて、1966年である。

(2) Brix はハンドレフラクトメーターの示度である。

区別	No	成熟期	裔芽数	裔芽重	果重	Brix
一〇〇、〇〇〇倍	1	10月20日	0	0.300kg	1.100kg	9.8
	2	10. 20	0	0.305	1.100	10.8
	3	10. 20	0	0.250	0.800	11.4
	4	折損	0	—	—	—
	5	折損	0	—	—	—
	6	11. 2.	0	0.240	0.650	13.0
	7	12. 24	4	0.205	1.400	13.0
	8	12. 24	3	0.285	1.500	12.8
	9	失	—	—	—	—
	10	失	—	—	—	—
	平均	11. 10	1.1	0.264	1.075	11.8

(注) (1) 失は盗難等で調査し得なかつたもの

(2) 折損は成熟前に果梗が折れて完熟しなかつたものである。然し裔芽数のわかるものは記入した。

(イ) 3月25日注入

区別	No	成熟期	嚢芽数	嚢芽重 kg	果重 kg	Brix °
五〇、〇〇〇倍	1	10月17日	2	0.265	1.300	12.0
	2	10.24	3	0.320	1.800	11.2
	3	10.24	2	0.260	1.600	12.8
	4	10.24	3	0.245	1.600	12.8
	5	10.29	1	0.340	0.950	12.4
	6	10.29	4	0.310	1.100	13.2
	7	10.29	3	0.330	1.600	13.4
	8	10.29	3	0.280	1.500	12.8
	9	11. 2	2	0.290	0.900	13.0
	10	11. 2	2	0.280	1.000	12.8
	平均	10.27	2.5	0.292	1.335	12.6

区別	No	成熟期	嚢芽数	嚢芽重 kg	果重 kg	Brix °
一〇〇、〇〇〇倍	1	10月20日	6	0.255	1.150	9.0
	2	10.24	3	0.315	1.600	11.2
	3	10.24	5	0.305	1.500	13.4
	4	10.29	1	0.235	1.600	11.2
	5	10.29	4	0.290	1.450	12.2
	6	10.29	3	0.280	1.100	12.4
	7	10.29	5	0.330	1.300	12.6
	8	10.29	2	0.410	1.200	12.0
	9	11. 2	1	0.325	1.000	11.8
	10	11. 2	2	0.390	1.100	13.4
	平均	10.28	3.2	0.314	1.300	11.9

(ウ) 4月14日注入

区別	No	成熟期	裔芽数	裔芽重 kg	果重 kg	Brix °
五〇〇〇〇倍	1	12月 4日	2	0.380	1.400	13.8
	2	12.12	4	0.320	1.200	11.0
	3	12.18	6	0.280	1.600	12.8
	4	12.24	5	0.155	1.200	12.6
	5	12.24	6	0.230	1.200	12.4
	6	12.24	7	0.230	1.200	12.0
	7	12.24	8	0.240	1.250	12.8
	8	12.24	5	0.280	1.300	14.6
	9	12.26	6	0.225	1.400	13.0
	10	失	—	—	—	—
	平均	12.20	5.0	0.260	1.306	12.8

区別	No	成熟期	裔芽数	裔芽重 kg	果重 kg	Brix °
一〇〇、〇〇〇倍	1	12月 8日	1	0.270	1.300	10.8
	2	12.12	6	0.250	1.600	10.5
	3	12.24	7	0.230	1.550	11.0
	4	12.24	5	0.190	1.450	13.6
	5	12.24	6	0.240	1.200	12.8
	6	12.24	5	0.260	1.500	12.4
	7	12.24	3	0.210	1.200	12.4
	8	12.24	8	0.240	1.200	12.0
	9	12.24	7	0.190	1.400	12.0
	10	失	—	—	—	—
	平均	12.21	5.3	0.231	1.378	11.9

（エ） 対照区（無注入）

区別	No	成熟期	蕾芽数	蕾芽重	果重	Brix
対照	1	12月 4日	5	0.280kg	1.400kg	11.6°
	2	12. 8	7	0.315	1.700	11.0
	3	12. 8	8	0.260	1.600	11.0
	4	12. 24	6	0.350	1.300	11.2
	5	12. 24	5	0.385	1.400	10.0
	6	12. 24	6	0.210	1.150	13.2
	7	12. 26	7	0.240	1.200	13.2
	8	12. 26	7	0.310	1.200	10.6
	9	失	—	—	—	—
	10	失	—	—	—	—
	平均	12. 18	6.4	0.294	1.369	11.5

考　察

(1) 当地方のパインの収穫期は11月12月であるので花芽分化期は7ケ月逆算して4月頃と見て、それ以前のホルモン処理を計画した。然し薬品の到着がおくれて第1回処理が3月6日となつた。

(2) ホルモン処理後直に花芽分化が起り、それから7ケ月後に成熟するのが外国における通例があるが、当地方においてもそれが言えることを知つた。

(3) 3月6日注入区は5万倍区が、10万倍区に比して成績良好であつたが3月25日注入区は5万、10万倍区共差異が認められない。特に3月6日区の10万倍の内NO7、NO8の収穫期が12月24日であることはホルモン効果がなかつたことを意味するものである。実用面では3月6日にホルモン処理する場合は5万倍とすること、3月25日に処理する場合は5万、10万倍いずれでもよい。

(4) 果重Brix について区別の差異は顕著なものが見られないが、蕾芽の数はホルモン処理区が対照区に比して少ない。

(5) ホルモン処理によつて収穫期を調節出来て本実験においても3月中処理区は一般のパインが出廻らない時期に収穫されるが4月14日処理区は無処理のものと花芽分化期が一致して無意味であることを知つた。

(6) ホルモン処理時期を3月以前に繰り上げて収穫期を更に早めることも考えられるがその場合にはホルモン処理期が雨季の最中となるため効果が劣ること、又果実の生長期が低温乾燥期になるから肥大登熟に障害の起ることも考えられる。

2　バナナ収穫時期調節試験

昨年度に引続いて料理用バナナの植付時期と収穫期の関係を知るため1964年から毎月植付けて開花期、収穫期を調査中の処、地力の不均一による生育相の混乱を生ずるに至つたので試験を中止した。地方の不均一とは1964年に本試験開始に当り、試験区予定地として再生林地を伐開したのであるがその後1ケ年にわたり毎月1区（5株）づつ定植し続ける間に除草自然風化等のため第1区から第12区へと地力の減少を見るに至つたもので、成績考察に混乱を認めたので試験続行を中止したものである。因に地方恢復のために施肥も考えられるが当地方ではバナナの施肥栽培は経済的に無理であるため本試験の実施も無肥料栽培として発足したので途中で施肥栽培に変更出来なかつたものである。

3.　柑橘品種試験

ポンカン等比較試験中であるが収穫は4月以降となるので次回に報告する。

4.　マカダミア・ナット栽培試験

ハワイから導入のマカダミア・ナット80株を定植し管理中で生育は良好である。

5.　果樹見本栽培

次の果樹を蒐集栽培中である。

カランボラ、チエリモヤ、ワブルー、グワバ，ペカン、柿、梨、ヤシ、パンノキ、オリーブ、パラミツ、果物時計草、ククイノキ、アボカード、バナナグロスミチエル等

Ⅲ 嗜好料作物の部

1. コーヒー株当植付本数試験

収穫期が3～4月であるから成績は次回に報告する。

2. ピメンタ栽培試験

ブラジルから導入のピメンタを1964年3月に定植し、翌1965年から結実を見てその成績は既に報告した処である。本年は収穫第2年目であるが植付本数の約三分の二が枯死するに至つた。乾燥低温期には新梢約20㎝が枯死し、葉の三分の一は落葉するがその後、萌芽して気温の上昇と共に生長も恢復するのが通例であるが本年は乾燥低温期に落葉と共に枯死するに至つたのである。原因は明確ではないが雨季の湿害で根部に障害を受けたものが乾燥と低温のため枯死するに至つたものと見られる。然しフザリウム等による枯死も考えられないことはない。上の次第で満足な調査も不可能になつたため、この試験は中止し、改めて排水良好な地域を求めて苗20株を定植し観察中である。

Ⅳ 油肥料作物の部

1. 胡麻品種試験

(1) 目　的

多収、耐病性で含油量の多い品種を選出する。

(2) 試験方法の概要

(ア)	品　　種	日本種他9種
(イ)	播 種 期	10月18日
(ウ)	栽植密度	0.75m×0.25m 1本立
(エ)	供試面積	10m×0.75m×2列×9＝132㎡
(オ)	除　　草	11月4日
(カ)	間　　引	10月31日、11月12日、11月17日
(キ)	培　　土	11月17日

（ク） 農　　薬　　ホリドール撒布 10月30日

（ケ） 肥　　料　　追肥 11月17日ha当配合肥料 100 kg

(3) 試験成績

品種名	播種期	開花期	収穫期	稈長	莢数	莢の稜角数	1株種実重	備考
Tchuantepec 1	10月18日	12月10日	1月27日	194cm	106	2	14.9g	
Venozuela 51	〃	12. 13	1. 27	166	104	2	13.7	
Pachaquono Regional	〃	12. 13	1. 26	164	110	2	13.5	
Regional 105	〃	12. 5	1. 27	139	87	2	14.0	
Instituto 25	〃	12. 5	1. 17	157	80	4	15.5	
Instituto 104	〃	12. 4	1. 21	170	116	2	15.9	
Ciano 71	〃	12. 7	1. 21	171	115	2	17.5	
Ianmar	〃	12. 7	1. 26	173	149	2	21.5	
日本種	〃	11. 26	12.30	117	61	4	10.7	

考　察

本年は生育期間中天候が順調であつたため生育極めて良好であつた。

日本種は早生であるが収量は割合に多い。

将来の油肥原料として胡麻は有望と認められる。

2. 落花生品種試験

Early Runner 他9種について比較試験を実施したが調製が未了であるのでその成績は次期に報告する。

繊維作物の部

1. ジュート品種試験

(1) 目　的

繊維が良質多収の品種を選出する。

(2) 試験方法の概要

(ア) 品　　種　　Salimon 他 10 種

(イ) 播 種 期　　10月26日

(ウ) 栽培密度　　畦巾 0.30m条播

(エ) 区　　制　　1区 5 m × 0.30 m × 4畦　4区制

(オ) レッテイング　　生茎は収穫後堆積し、落葉せしめて侵水し、剥皮洗滌する。

(3) 試験成績

ランダムに配列した4区について　4畦の中央2畦（3㎡　）を収穫した成績は次の通りである。

品種名	収穫期	草丈	茎径	3m2 生茎重	3m2 精繊維重	繊維重歩合
		cm	cm	kg	kg	
AG 2−402	2月13日	258.9	1.35	10.400	0.389	
	2. 13	252.0	1.37	9.150	0.345	
	2. 13	244.0	1.26	8.350	0.321	
	2. 13	233.6	1.29	7.600	0.303	
計		988.5	5.27	35.500	1.358	
平均	2. 13	247.1	1.32	8.875	0.340	3.8 %

品種名	収穫期	草丈	茎経	3 ㎡ 生茎重	3 ㎡ 精繊維重	繊維重歩合
		cm	cm	kg	kg	
Lizo	3月3日	278.9	1.58	11.100	0.695	
	3. 3	278.0	1.45	11.700	0.678	
	3. 3	280.1	1.65	9.850	0.623	
	3. 3	284.8	1.70	10.150	0.618	
計		1121.8	6.38	42.800	2.614	
平均	3. 3	280.5	1.60	10.700	0.654	6.1 %

品種名	収穫期	草丈 cm	茎径 cm	3 m² 生茎重 kg	3 m² 精繊維重 kg	繊維重歩合
Pakistan	2月13日	277.8	1.28	7.500	0.422	
	2. 13	288.9	1.22	10.300	0.511	
	2. 13	288.7	1.25	9.450	0.521	
	2. 13	286.2	1.29	11.200	0.583	
計		1141.6	5.04	38.450	2.037	
平均	2. 13	285.4	1.26	9.613	0.509	5.3 %
AG 2−405	2. 13	288.7	1.32	10.150	0.579	
	2. 13	281.7	1.32	8.500	0.504	
	2. 13	281.7	1.33	10.950	0.510	
	2. 13	286.3	1.20	9.350	0.486	
計		1128.4	5.17	38.950	2.079	
平均	2. 13	282.1	1.29	9.738	0.520	5.3 %
Pakistan 1	2. 13	236.1	1.17	7.750	0.327	
	2. 13	243.0	1.36	9.800	0.343	
	2. 13	237.3	1.28	7.800	0.300	
	2. 13	211.0	1.14	5.750	0.208	
計		927.4	4.95	31.100	1.178	
平均	2. 13	231.9	1.24	7.775	0.295	2.5 %
Salimones	3. 3	285.4	1.78	9.350	0.548	
	3. 3	312.7	1.77	12.800	0.888	
	3. 3	252.5	1.62	7.750	0.513	
	3. 3	251.2	1.47	8.550	0.548	
計		1101.8	6.64	38.450	2.497	
平均	3. 3.	275.5	1.66	9.613	0.624	6.5 %

（注） 茎径は地上50cmの測定である。

品種名	収穫期	草丈	茎径	3 m² 生茎重	3 m² 精繊維重	繊維重歩合
AG 2−404	2. 13	229.4	1.21	7.500	0.274	
	2. 13	212.1	1.24	8.300	0.354	
	2. 13	217.4	1.19	6.350	0.251	
	2. 13	220.6	1.18	6.700	0.265	
計		879.5	4.82	28.850	1.144	
平均	2. 13	219.9	1.21	7.213	0.286	4.0 %
AG 2−403	2. 13	247.2	1.30	7.350	0.358	
	2. 13	240.7	1.28	6.800	0.309	
	2. 13	257.4	1.38	10.000	0.441	
	2. 13	252.3	1.46	9.700	0.458	
計		997.6	5.42	33.850	1.566	
平均	2. 13	249.4	1.36	8.463	0.396	4.6 %
Loxa	3. 3	266.5	1.35	8.850	0.573	
	3. 3	279.1	1.54	10.300	0.702	
	3. 3	273.7	1.57	7.500	0.501	
	3. 3	277.9	1.57	6.480	0.467	
計		1097.2	6.03	33.130	2.243	
平均	3. 3	274.3	1.51	8.283	0.561	6.8 %
Tanganica	2. 13	230.3	1.30	8.400	0.348	
	2. 13	242.4	1.27	8.200	0.349	
	2. 13	231.8	0.98	5.350	0.239	
	2. 13	245.9	1.17	6.600	0.234	
計		950.4	4.72	28.550	1.170	
平均	3. 3	237.6	1.18	7.138	0.293	4.1 %

考　　察

本試験に供した１０種の内８種はCorchorus capsularis

草丈、精繊維収量、生茎重に対する精繊維重歩合から見て明

て共にC, Capsularis である。

C, olitorius は分枝多く草丈低く収量も劣つている。

2.　ケナフ品種試験

(1)　目　的

繊維が良質多収の品種を選出する。

(2)　試験方法の概要

（ア）品　　種　　Cuba 2032他１２種

（イ）播 種 期　　10月２６日

（ウ）栽植密度　　畦巾0.３ｍ条播

（エ）区　　制　　１区制　５ｍ×0.３ｍ×４畦

（オ）レッテイング　　ジュートに同じ

(3)　試験成績

品種名	収穫期	草丈	茎径	3㎡生茎重	3㎡精繊維重	繊維重歩合	備考
	月日	cm	cm	kg	kg	%	
BG 52－ 75	3月13日	292.5	1.96	14.800	0.950	6.4	茎径は地上50cmの測定
Cuba 2032	〃	306.0	1.72	10.250	0.725	7.1	
BG 52－122	〃	319.8	2.0.2	12.150	0.880	7.2	
BG 52－ 71	〃	332.3	1.85	14.800	1.125	7.6	
BG 52－135	〃	330.8	1.81	8.150	0.475	5.8	
BG 58－ 12	〃	260.0	1.68	8.000	0.550	6.9	

考　　察

ケナフの生育は極めて良好であつて特にＢＧ５２－７，ＢＧ

で２種がC　Olitoriusである。

確に優れているものはLizo, Salimones, Laxaの３種であつ

品種名	収穫期	草丈	茎径	3㎡生茎重	3㎡精繊維重	繊維重歩合	備考
BG 52－ 52	3月13日	287.5	1.92	12.900	0.925	7.2 %	
BG 52－119	〃	330.5	1.91	12.200	0.780	6.3	
BG 52－ 41	〃	312.3	1.89	12.180	0.875	7.1	
BG 52－ 7	〃	325.3	2.01	16.600	1.250	7.5	
Cuba 108	〃	285.7	1.86	11.700	0.900	7.7	
BG 58－ 7	〃	251.6	1.67	8.750	0.650	7.5	

５２－７１は優れた成績を示した。

3. ジュート繊維採収過程の調査研究

ジュートの収穫から剝皮、浸漬、洗滌の方法と労力を調査中である。剝皮ー乾燥ー浸漬ー洗滌の過程が未終であるので成績は次期に報告する。

4. 七島いの栽培試験

(1) 目 的

当地には莫蓙等敷物の材料として適当なものがないので七島いの栽培の適否を知る。

(2) 試験方法の概要

(ア) 品 種　　ブラジルから導入の日本種

(イ) 植付時期　　12月17日

(ウ) 栽植密度　　0.2m×0.20m

(エ) 供試面積　　水田 0.04ha

(3) 試験成績

本年は生育状況の観察と増殖を主とするが、生育旺盛であつてサンフアンの自然に適合するものと思われる。

牧草の部

1. 牧草品種試験

(1) 目 的

生草の収量多く特に耐乾、耐寒、耐湿性のある牧草を選出する。

(2) 試験方法の概要

(ア) 品 種　　Rhodes 他10種

（イ）播種時期　　10月26日

（ウ）供試面積　　0.7ha

（エ）区　　制　　散播10種1区及び縦横交叉する混播1区とする。

(3) 試験成績

１０月２６日播種、１２月に雑草と共に高さ２０cmに刈払つた。その後手入は行つていない。

１９６７年３月３１日の観察結果を示せば次の通りである。

名　　称	学	名	生育状況	備　　考
Panico Verde	Panicum Maximum Var	Thryclogummo		
Kudazu Tropicalo	Puoraria Phaseolo—	ides	＋	
Atro	Phaseolus Atropur	pureus		
Glycine	Glycine Javanica			
Desmodium (Silver)	Desmodium Ununatum		＋ ＋	
Desmodium (Green)	〃 intortum			
Lotononis	Lotononis Bainesii			
Kazungulu Setaria	Terranova Pedigreed		＋＋＋	雑草を抑えて生育良好
Rhodes	—		＋＋＋	雑草を抑えて生育良好
Lablab	—		＋	

考　察

現在、当地に在る牧草はMerkeron, Yaragua, Colonion, Grama, Grama Nogra, Pangola等であつて新しい品種として上の種類を試作したのであるがSetaria及びRhodesは雨季を経過して生育良好である。今後の低温乾燥期の経過に注目すべきである。

展示栽培の部

(1) 目　的

品種保存を兼ねて展示栽培を行う。

(2) 種　類

展示栽培したものは次の通りである。

(ア) 食糧作物　小麦２種、緑豆、メキシコ豆
(イ) 嗜好料作物　日本茶、紅茶、カカオ、
(ウ) 香料作物　ペチバ、シトロネラ、バニラ、薄荷
(エ) 繊維作物　ラミー、ローゼル、アカバ
(オ) 緑肥作物　クロタラリアスペクタビリス、クロタラリア ジユンセア、テフロシア、セントロセーマ、カルポゴニコーム、ムクナ、インデイゴフエラ、フエジヨンガンドー
(カ) 薬用植物　印度蛇木、吐根

家畜の部

1. 養蜂に関する調査

本年は採蜜等の調査は行わなかつた。

2. 豚の飼育試験

ジユロツクジヤジー♀２　♂１　バークシヤ♀１　♂１を飼育中である。

ジユロツクジヤジーの生育良好であるから増殖することとして１２月２０日に種付を行つた。

3. 鶏の飼育試験

レグホーン♀１２　♂２　ニューハンプシヤー♀１３　♂２を飼育して産卵数を調査した。

成績は次の通りである。

種類	孵化期	産卵開始期	1967年3月31日まで産卵数	在期間の延羽数	産卵率	備考
レグホーン	1965年10月28日	1966年4月16日	2,737 羽	4,018 羽	68%	羽数は中途で斃死したものがあるので延羽数とした。
ニューハンプシヤー	〃	〃 4月20日	2,248 羽	4,317 羽	52%	

農薬の部

1. 殺虫剤に関する試験

Phostoxinを使用して燻蒸試験を行つた結果は次の通りである。

日　　時　　1966年6月21日　午後4時～23日午後4時

供試材料　　穀象虫等の喰害した小麦粒

方　　法　　ドラム鑵（200ℓ）に材料を満したPhost－oxin 2錠を投入してビニール布で覆つてガスの漏洩を防止した。

成　　績　　薬品投入後48時間で開封して検査した結果次の害虫は全部死滅したことを認めた。

害虫名　　Sitophilus oryzae　Schonherr

Laemophloeus Pusillus　Schonherr

2.　殺虫剤に関する試験

Surcopur を使用して陸稲の殺草試験を行つた結果は次の通りである。

供試品種　　Cateto

播種期　　1966年11月3日

雑草の状況　　雑草は禾本科その他5種で草丈は約3～4mであつた。

薬液濃度　　水15ℓ：Surcopur 0.5ℓ　ha当400ℓ

試験結果

月　日	天　候	殺草効果	備　考
1966年11月22日	快晴平均気温 28.3 °c	薬剤撒布当日	
23	〃　27.7	雑草やや萎凋す	
24	〃　28.8	雑草枯死し始む	
25	〃　28.5	大部分の雑草枯死す	稲の葉先にやゝ薬害を認む
26	〃　27.8	〃	ツユ草は枯死しない。
			〃

考　察

Surcopur 撒布した陸稲畑はその後、収穫まで除草は行なわないで済んだ。

なお、稲株の中に生えた雑草も枯死する点は農具による除草に勝る。

実験実施時まで薬価が不明であつたが薬価次第では移住地の営農に取入れるべきものと考える。